校異源氏物語・あふひ

世の中かはりて後よろつものうくおほされ御身のやむことなさもそふにやかる
くしき御しのひありきもつゝましうてこゝもかしこもおほつかなさのなけき
をかさね給ふむくひにやなをわれにつれなき人の御心をつきせすのみおほしな
けく今はましてひまなうたゝ人のやうにてそひおはしますをいまきさきは心や
ましうおほすにやうちにのみさふらひ給へはたちならふ人なう心やすけなりお
りふしにしたかひては御あそひなとをこのましう世のひゝくはかりせさせ給つ
ゝ今の御ありさましもめてたしたゝ春宮をそいとこひしう思ひきこえ給御うし
ろみのなきをうしろめたうおもひきこえて大将の君によろつきこえつけ給ふも
かたはらいたきものからうれしとおほすまことやかの六条のみやす所の御はら
のせむ坊のひめ君さい宮にゐ給にしかは大将の御心はへもいとたのもしけなき
をゝさなき御有さまのうしろめたさにことつけてくたりやしなましとかねてよ
りおほしけり院にもかゝることなむときこしめしてこ宮のいとやむことなくお
ほしときめかしたまひしものをかる　くしうをしなへたるさまにもてなすなる
かいとおしきこと斎宮をもこのみこたちのつらになむおもへはいつかたにつけ
てもおろかならさらむこそよからめ心のすさひにまかせてかくすきわさするは
いとよのもときおひぬへきこと也なと御けしきあしけれはわか御こゝちにもけ
にとおもひしらるれはかしこまりてさふらひ給人のためはしかましき事なくい
つれをもなたらかにもてなして女のうらみなおひそとの給はするにもけしから
ぬ心のおほけなさをきこしめしつけたらむときとおそろしけれはかしこまりて
まかて給ぬ又かく院にもきこしめしのたまはするに人の御名も我ためもすきか
ましういとおしきにいとゝやむことなく心くるしきすちには思きこえ給へとま
たあらはれてはわさともてなしきこえ給はす女もにけなき御としのほとをはつ
かしうおほして心とけ給はぬけしきなれはそれにつゝみたるさまにもてなして
院にきこしめしいれ世中の人もしらぬなくなりにたるをふかうしもあらぬ御心
の程をいみしうおほしなけきけりかゝる事をきゝ給にもあさかほのひめ君はい
かて人ににしとふかうおほせはゝかなきさまなりし御返なともおさ　くなしさ
りとて人にくゝはしたなくはもてなし給はぬ御けしきを君も猶こと也とおほし

わたるおほ殿にはかくのみさためなき御心を心つきなしとおほせとあまりつゝまぬ御けしきのいふかひなければにやあらむふかうもえしきこえ給はす心くるしきさまの御心ちになやみ給て物心ほそけにおほいたりめつらしくあはれとおもひきこえ給たれも　くうれしきものからゆゝしうおほしてさま　くの御つゝしみせさせたてまつり給かやうなる程にいとゝ御心のいとまなくておほしおこたるとはなけれととたえおほかるへしそのころ斎院もおりゐ給てきさきはらの女三の宮ゐ給ぬみかときさきとことにおもひきこえ給へる宮なれはすちことになり給をいとくるしうおほしたれとこと宮たちのさるへきおはせすきしきなとつねのかむわさなれといかめしうのゝしるまつりのほとかきりあるおほやけことにそふことおほくみところこよなし人からとみえたりこけいの日上達部なとかすさたまりてつかうまつり給わさなれとおほえことにかたちあるかきりしたかさねの色うへのはかまのもむむまくらまてみなとゝのへたりとりわきたるせむしにて大将の君もつかうまつり給かねてより物見車心つかひしけり一条のおほち所なくむくつけきまてさはきたり所　くの御さしき心　くにしつくしたるしつらひ人の袖くちさへいみしきみものなり大殿にはかやうの御ありきもおさ　くし給はぬに御心ちさへなやましけれはおほしかけさりけるをわかき人ゝいてやをのかとちひきしのひてみ侍らむこそはへなかるへけれおほよそ人たにけふのものみには大将殿をこそはあやしき山かつさへみたてまつらんとすなれとをきくにくによりめこをひきくしつゝもまうてくなるを御らむせぬはいとあまりも侍かなといふを大宮きこしめして御こゝちもよろしきひま也さふらふ人ゝもさう　くしけなめりとてにはかにめくらしおほせ給てみ給日たけ行てきしきもわさとならぬさまにていてたまへりひまもなうたちわたりたるによそをしうひきつゝきてたちわつらふよき女房車おほくてさふさふの人なきひまをおもひさためてみなさしのけさする中にあんしろのすこしなれたるかしたすたれのさまなとよしはめるにいたうひきいりてほのかなる袖くちものすそかさみなとものゝ色いときよらにてことさらにやつれたるけはひしるくみゆる車ふたつありこれはさらにさやうにさしのけなとすへき御車にもあらすとくちこはくて手ふれさせすいつかたにもわかき物ともゑひすきたちさはきたるほとの事はえしたゝめあへすおとな　くしきこせむの人ゝはかくななといへとえとゝめあへすさい宮の御はゝみやす所ものおほしみたるゝなくさめにもやとしのひていてたまへる也けりつれなしつくれとをのつからみしりぬさはかりにてはさないはせそ大将殿をそかうけにはおもひきこゆらむなといふをその御かたの人もましれは

いとおしとみなからよういせむもわつらはしけれはしらすかほをつくるつゐに
御車ともたてつゝけつれは人たまひのおくにをしやられて物もみえす心やまし
きをはさる物にてかゝるやつれをそれとしられぬるかいみしうねたき事かきり
なししちなともみなをしおられてすゝろなる車のとうにうちかけたれは又なう
人わろくくやしうなにゝきつらんとおもふにかひなしものもみてかへらんとし
たまへととおりいてんひまもなきにことなりぬといへはさすかにつらき人の御
まへわたりのまたるゝも心よはしやさゝのくまにたにあらねはにやつれなくす
き給につけても中　く御心つくしなりけにつねよりもこのみとゝのへたる車と
もの我も　くとのりこほれたるしたすたれのすきまともゝさらぬかほなれとほ
をゐみつゝしりめにとゝめ給もありおほ殿のはしるけれはまめたちてわたり給
御ともの人ゝうちかしこまり心はへありつゝわたるををしけたれたるありさま
こよなうおほさる

かけをのみみたらし河のつれなきに身のうきほとそいととしらるゝと涙の
こほるゝを人のみるもはしたなけれとめもあやなる御さまかたちのいとゝしう
いてはへをみさらましかはとおほさるほと　くにつけてさうそく人のありさま
いみしくとゝのへたりとみゆるなかにも上達部はいとことなるをひと所の御ひ
かりにはをしけたれためり大将の御かりのすいしんに殿上のそうなとのするこ
とはつねのことにもあらすめつらしき行幸なとのおりのわさなるをけふは右近
のくら人のそうつかうまつれりさらぬみすいしんとももかたちすかたまはゆく
とゝのへて世にもてかしつかれ給へるさま木草もなひかぬはあるましけなりつ
ほさうそくなといふすかたにて女はうのいやしからぬや又あまなとの世をそむ
きけるなともたうれまとひつゝ物見にいてたるもれいはあなかちなりやあなに
くとみゆるにけふはことはりにくちうちすけみてかみきこめたるあやしのもの
ともの手をつくりてひたいにあてつゝみたてまつりあけたるもおこかましけな
るしつのおまてをのかかほのならむさまをはしらてゐみさかへたりなにともみ
いれ給ましきゐせす両のむすめなとさへ心のかきりつくしたる車ともにのりさ
まことさらひ心けさうしたるなむおかしきやう　くのみものなりけるましてこ
ゝかしこにうちしのひてかよひ給所　くは人しれすのみかすならぬなけきまさ
るもおほかり式部卿の宮さしきにてそみたまひけるいとまはゆきまてねひゆく
人のかたちかな神なとはめもこそとめ給へとゆゝしくおほしたりひめ君はとし
ころきこえわたり給御心はへのよの人にゝぬをなのめならむにてたにありまし
てかうしもいかてと御心とまりけりいとゝちかくてみえむまてはおほしよらす

わかき人ゝはきゝにくきまてめてきこえあへりまつりの日はおほ殿にはものみ給はす大将の君かの御車の所あらそひをまねひきこゆる人ありけれはいと　く
おしううしとおほしてなをあたらをもりかにおはする人のものになさけをくれすく　くしき所つき給へるあまりに身つからはさしもおほさゝりけめともかゝるなからひはなさけかはすへき物ともおほいたらぬ御をきてにしたかひてつき
　くよからぬ人のせさせたるならむかしみやす所は心はせのいとはつかしくよしありておはする物をいかにおほしうむしにけんといとおしくてまうて給へりけれとさい宮のまた本の宮におはしませはさかきのはゝかりにことつけて心やすくもたいめむしたまはすことはりとはおほしなからなそやかくかたみにそはく　くしからておはせかしとうちつふやかれ給けふは二条院にはなれおはしてまつりみにいて給にしのたいにわたり給てこれみつに車の事おほせたり女房いてたつやとの給てひめ君のいとうつくしけにつくろいたてゝおはするをうちゑみてみたてまつり給君はいさたまへもろともにみむよとて御くしのつねよりもきよらにみゆるをかきなて給てひさしうそき給はさめるをけふはよき日ならむかしとてこよみのはかせめしてときとはせなとし給ほとにまつ女房いてねとてわらはのすかたとものおかしけなるを御らむすいとらうたけなるかみとものすそはなやかにそきわたしてうきもむのうへのはかまにかゝれるほとけさやかにみゆ君の御くしはわれそかむとてうたて所せうもあるかないかにおひやらむとすらむとそきわつらひ給いとなかき人もひたいかみはすこしみしかうそあめるをむけにをくれたるすちのなきやあまりなさけなからむとてそきはてゝちひろといはひきこえ給を少納言あはれにかたしけなしとみたてまつる
　はかりなきちひろのそこのみるふさのおひゆくすゑはわれのみそみむときこえたまへは
　ちひろともいかてかしらむさためなくみちひるしほのゝとけからぬにともおほすけふも所もなくたちにけりむまはのおとゝのほとにたてわつらひてかむのにかきつけておはするさまらう　くしき物からわかうおかしきをめてたしとたちめの車ともおほくてものさはかしけなるわたりかなとやすらひ給によろしき女車のいたうのりこほれたるよりあふきをさしいてゝ人をまねきよせてこゝにやはたゝせ給はぬ所さりきこえむときこえたりいかなるすき物ならむとおほされて所もけによきわたりなれはひきよせさせ給ていかてえ給へる所そとねたさになんとのたまへはよしあるあふきのつまをおりて
　はかなしや人のかさせるあふひゆへ神のゆるしのけふをまちけるしめのう

ちにはとあるてをおほしいつれはかの内侍のすけなりけりあさましうふりかたくもいまめくかなとにくさにはしたなう

かさしけるこゝろそあたにおもほゆるやそうち人になへてあふひを女はつらしと思きこえけり

くやしくもかさしけるかななのみして人たのめなる草葉はかりをときこゆ

人とあひのりてすたれをたにあけ給はぬを心やましうおもふ人おほかり一日の御ありさまのうるはしかりしにけふうちみたれてありき給かしたれならむのりならふ人けしうはあらしはやとをしはかりきこゆいとましからぬかさしあらそひかなとさう　くしくおほせとかやうにいとおもなからぬ人はた人あひのり給へるにつゝまれてはかなき御いらへも心やすくきこえんもまはゆしかしみやす所は物をおほしみたるゝ事としころよりもおほくそひにけりつらきかたにおもひはて給へといまはとてふりはなれくたりたまひなむはいと心ほそかりぬへくよの人きゝも人わらへにならんことゝおほすさりとてたちとまるへくおほしなるにはかくこよなきさまにみな思ひくたすへかめるもやすからすつりするあまのうけなれやとおきふしおほしわつらふけにや御心ちもうきたるやうにおほされてなやましうし給大将殿にはくたり給はむ事をもてはなれてあるましきことなともさまたけきこえ給はすかすならぬ身をみまうくおほしすてむもことはりなれといまは猶いふかひなきにても御らんしはてむやあさからぬにはあらんときこえかゝつらひ給へはさためかねたまへる御心もやなくさむとたちいて給へりしみそき河のあらかりしせにいとゝよろついとうくおほしいれたり大殿には御ものゝけめきていたうわつらひ給へはたれも　くおほしなけくに御ありきなとひむなき比なれは二条院にもとき　くそわたり給さはいへとやむことなきかたはことに思きこえたまへる人のめつらしき事さへそひ給へる御なやみなれは心くるしうおほしなけきてみすほうやなにやなとわか御かたにておほくおこなわせ給ふものゝけいきすたまなといふものおほくいてきてさま　くのなのりする中に人にさらにうつらすたゝ身つからの御身につとそひたるさまにてことにおとろ　くしうわつらはしきこゆることもなけれと又かたときはなるるおりもなき物ひとつありいみしきけんさともにもしたかはすしうねきけしきおほろけのものにあらすとみえたり大将の君の御かよひ所こゝかしことおほしあつるにこのみやす所二条の君なとはかりこそはをしなへてのさまにはおほしたらさめれはうらみの心もふかゝらめとささめきてものなととはせ給へとさしてきこえあつることもなしものゝけとてもわさとふかき御かたきときこゆるもなしすき

にける御めのとたつ人もしはおやの御かたにつけつゝつたはりたるものゝよはめにいてきたるなとむね　くしからすそみたれあらはるゝたゝつく　くとねをのみなき給ており　くはむねをせきあけつゝいみしうたへかたけにまとふわさをし給へはいかにおはすへきにかとゆゝしうかなしくおほしあはてたり院よりも御とふらひひまなく御いのりのことまておほしよらせ給さまのかたしけなきにつけてもいとゝおしけなる人の御身也世の中あまねくおしみきこゆるをきゝ給にもみやす所はたゝならすおほさるとしころはいとかくしもあらさりし御いとみ心をはかなかりし所の車あらそひに人の御心のうこきにけるをかのとのにはさまてもおほしよらさりけりかゝる御物おもひのみたれに御心ち猶れいならすのみおほさるれはほかにわたり給てみすほうなとせさせ給大将殿きゝ給ていかなる御心ちにかといとおしうおほしをこしてわたり給へりれいならぬたひ所なれはいたうしのひ給心よりほかなるおこたりなとつみゆるされぬへくきこえつゝけ給てなやみ給人の御ありさまもうれへきこえ給身つからはさしも思いれ侍らねとおやたちのいとこと　くしうおもひまとはるるか心くるしさにかゝるほとをみすくさむとてなむよろつをおほしのとめたる御心ならはいとうれしうなむなとかたらひきこえ給つねよりも心くるしけなる御けしきをことはりにあはれにみたてまつり給うちとけぬあさほらけにいて給御さまのおかしきにも猶ふりはなれなむ事はおほしかへさるやむことなきかたにいとゝ心さしそひ給へきこともいてきにたれはひとつかたにおほししつまり給なむをかやうに待きこえつゝあらむも心のみつきぬへき事中　くもの思のおとろかさるゝ心ちし給に御ふみはかりそくれつかたある日ころすこしおこたるさまなりつる心ちのにはかにいといたうくるしけに侍るをえひきよかてなむとあるをれいのことつけとみたまふ物から

　袖ぬるゝ恋ちとかつはしりなからおりたつたこの身つからそうき山の井の水もことはりにとそある御てはなをここらの人の中にすくれたりかしとみ給ひつゝいかにそやもある世かな心もかたちもとり　くにすつへくもなく又おもひさたむへきもなきをくるしうおほさる御かへりいとくらうなりにたれと袖のみぬるゝやいかにふかゝらぬ御事になむ

　あさみにや人はおりたつわかかたは身もそほつまてふかき恋ちをおほろけにてやこの御かへりをみつからきこえさせぬなとありおほ殿には御ものゝけいたうおこりていみしうわつらひ給この御いきすたまこちゝおとゝの御らうなといふものありときゝ給につけておほしつゝくれは身ひとつのうきなけきよりほ

かに人をあしかれなとおもふ心もなけれと物おもひにあくかるなるたましゐはさもやあらむとおほししらるゝこともありとしころよろつに思ひのこすことなくすくしつれとかうしもくたけぬをはかなき事のおりに人のおもひけちなきものにもてなすさまなりしみそきの後一ふしにおほしうかれにし心しつまりかたうおほさるゝけにやすこしうちまとろみ給夢にはかのひめ君とおほしき人のいときよらにてある所にいきてとかくひきまさくりうつゝにもにすたけくいかきひたふる心いてきてうちかなくるなとみえ給事たひかさなりにけりあな心うやけに身をすてゝやいにけむとうつし心ならすおほえ給おり　くもあれはさならぬ事たに人の御ためにはよさまのことをしもいひいてぬ世なれはましてこれはいとよういひなしつへきたよりなりとおほすにいとなたたしうひたすら世になくなりて後にうらみのこすはよのつねのこと也それたに人のうへにてはつみふかうゆゝしきをうつゝの我身なからさるうとましきことをいひつけらるゝすくせのうきことすへてつれなき人にいかて心もかけきこえしとおほしかへせとおもふも物をなりさい宮はこそうちにいり給へかりしをさま　くさはる事ありてこの秋入給九月にはやかてのゝ宮にうつろひ給へけれはふたゝひの御はらへのいそきとりかさねてあるへきにたゝあやしうほけ　くしうてつく　くとふしなやみ給を宮人いみしきたいしにて御いのりなとさま　くつかうまつるおとろ

くしきさまにはあらすそこはかとなくて月日をすくし給大将殿もつねにとふらひきこえ給へとまさるかたのいたうわつらひ給へは御心のいとまなけなりまたさるへきほとにもあらすとみな人もたゆみ給へるにはかに御けしきありてなやみ給へはいとゝしき御いのりかすをつくしてせさせ給へれとれいのしうねき御ものゝけひとつさらにうこかすやむことなきけむさともめつらか也ともてなやむさすかにいみしうてうせられて心くるしけになきわひてすこしゆるへ給へや大将にきこゆへき事ありとのたまふされはよあるやうあらんとてちかき御き丁のもとにいれたてまつりたりむけにかきりのさまにものし給をきこえをかまほしきこともおはするにやとておとゝも宮もすこししりそき給へりかちのそうともこゑしつめて法華経をよみたるいみしうたうとしみき丁のかたひらひきあけてみたてまつり給へはいとおかしけにて御はらはいみしうたかうてふし給へるさまよそ人たにみたてまつらむに心みたれぬへしましておしうかなしうおほすことはり也しろき御そに色あひいとはなやかにて御くしのいとなかうこちたきをひきゆひてうちそへたるもかうてこそらうたけになまめきたるかたそひておかしかりけれとみゆ御てをとらへてあないみし心うきめをみせ給かなとて

物もきこえ給はすなき給へはれいはいとわつらはしうはつかしけなる御まみをいとたゆけにみあけてうちまもりきこえ給に涙のこほるるさまをみ給はいかゝあはれのあさからむあまりいたうなきたまへは心くるしきおやたちの御事をおほし又かくみ給につけてくちおしうおほえ給にやとおほしてなに事もいとかうなおほしいれそさりともけしうはおはせしいかなりともかならすあふせあなれはたいめむはありなむおとゝ宮なともふかき契ある中はめくりてもたえさなれはあひみるほとありなむとおほせとなくさめ給にいてあらすや身のうへのいとくるしきをしはしやすめ給へときこえむとてなむかくまいりこむともさらに思はぬを物おもふ人のたましひはけにあくかるゝ物になむありけるとなつかしけにいひて

なけきわひ空にみたるゝわかたまをむすひとゝめよしたかへのつまとの給こゑけはひその人にもあらすかはりたまへりいとあやしとおほしめくらすにたゝかのみやす所也けりあさましう人のとかくゆふをよからぬもののいひいつることもきゝにくゝおほしての給けつをめにみす　く世にはかゝる事こそはありけれとうとましうなりぬあな心うとおほされてかくの給へとたれとこそしらねたしかにの給へとの給へはたゝそれなる御ありさまにあさましとはよのつね也人〳〵ちかうまいるもかたはらいたうおほさるすこし御こゑもしつまり給へれはひまおはするにやとて宮の御ゆもてよせ給へるにかきおこされ給てほとなくうまれ給ぬうれしとおほす事かきりなきに人にかりうつし給へる御ものゝけともねたかりまとふけはひいと物さはかしうてのちのこと又いと心もとなしいふかきりなきくわんともたてさせ給けにやたいらかに事なりはてぬれは山のさすなにくれやむことなきそうともしたりかほにあせをしのこひつゝいそきまかてぬおほくの人の心をつくしつる日ころのなこりすこしうちやすみて今はさりともとおほすみすほうなとは又　くはしめそへさせ給へとまつはけうありめつらしき御かしつきにみな人ゆるへり院をはしめたてまつりてみこたちかむたちめのこるなきうふやしなひとものめつらかにいかめしきを夜ことにみのゝしるおとこにてさへおはすれはそのほとのさほうにきはゝしくめてたしかの宮す所はかゝる御ありさまをきゝ給てもたゝならすかねてはいとあやうくきこえしをたいらかにもはたとうちおほしけりあやしうわれにもあらぬ御心ちをおほしつゝくるに御そなともたゝけしのかにしみかへりたるあやしさに御ゆするまいり御そきかへなとし給て心みたまへと猶おなしやうにのみあれはわか身なからたにうとましうおほさるゝにまして人のいひおもはむことなと人にの給へき事な

らねは心ひとつにおほしなけくにいとゝ御心かはりもまさりゆく大将殿は心ちすこしのとめ給てあさましかりしほとのとはすかたりも心うくおほしいてられつゝいとほとへにけるも心くるしう又けちかうみたてまつらむにはいかにそやうたておほゆへきを人の御ためいとおしうよろつにおほして御ふみはかりそありけるいたうわつらひ給し人の御なこりゆゝしう心ゆるひなけにたれもおほしたれはことはりにて御ありきもなし猶いとなやましけにのみしたまへはれいのさまにてもまたたいめんし給はすわか君のいとゆゝしきまてみえ給御ありさまをいまからいとさまことにもてかしつききこえ給さまおろかならすことあひたる心ちしておとゝもうれしういみしとおもひきこえ給へるにたゝこの御心ちおこたりはて給はぬを心もとなくおほせとさはかりいみしかりしなこりにこそはとおほしていかてかはさのみは心をもまとはし給はんわか君の御まみのうつくしさなとの春宮にいみしうにたてまつり給へるをみたてまつり給てもまつこひしうおもひ出られさせ給にしのひかたくてまいり給はむとてうちなとにもあまりひさしうまいり侍らねはいふせさにけふなむうひたちし侍をすこしけちかきほとにてきこえさせはやあまりおほつかなき御心のへたてかなとうらみきこえ給へれはけにたゝひとへにえむにのみあるへき御中にもあらぬをいたうおとろへ給へりといひなからものこしにてなとあへきかはとてふし給へる所におましちかうまいりたれはいりて物なときこえ給御いらへ時〻きこえ給も猶いとよはけ也されとむけになき人とおもひきこえし御ありさまをおほしいつれは夢の心ちしてゆゝしかりしほとの事ともなときこえ給ついてにもかのむけにいきもたえたるやうにおはせしかひきかへしつふ　くとのたまひし事ともおほしいつるに心うけれはいさやきこえまほしきことおほかれとまたいとたゆけにおほしたためれはこそとて御ゆまいれなとさへあつかひきこえ給をいつならひ給けんと人〻あはれかりきこゆいとおかしけなる人のいたうよはりそこなはれてあるかなきかのけしきにてふし給へるさまいとらうたけに心くるしけなり御くしのみたれたるすちもなくはら　くとかゝれる枕のほとありかたきまてみゆれはとしころなにことをあかぬことありておもひつらむとあやしきまてうちまもられ給院なとにまいりていととうまかてなむかやうにておほつかなからすみたてまつらはうれしかるへきを宮のつとおはするに心ちなくやとつつみてすくしつるもくるしきを猶やう　く心つよくおほしなしてれいのおまし所にこそあまりわかくもてなし給へはかたへはかくもものし給そなときこえをき給ていときよけにうちさうそきていて給をつねよりはめとゝめてみいたしてふし給へり秋のつ

かさめしあるへきさためにて大殿もまいり給へは君たちもいたはりのそみ給事
ともありてとのゝ御あたりはなれ給はねはみなひきつゝきいて給ぬとのゝうち
人すくなにしめやかなるほとににはかにれいの御むねをせきあけていといたう
まとひ給うちに御せうそこききこえ給ほともなくたえいり給ぬあしをそらにてたれも　くまかて給ぬれはちもくの夜なりけれとかくわりなき御さはりなれはみな事やふれたるやう也のゝしりさはくほと夜中はかりなれは山のさすなにくれのそうつたちもえさうしあへ給はすいまはさりともとおもひたゆみたりつるにあさましけれはとのゝうちの人ものにそあたる所　くの御とふらひのつかひなとたちこみたれとえききこえつかすゆすりみちていみしき御心まとひともいとおそろしきまてみえ給御ものゝけのたひ　くとりいれたてまつりしをおほして御まくらなともさなから二三日みたてまつり給へとやう　くかはり給ことゝものあれはかきりとおほしはつるほとたれも　くいといみし大将殿はかなしきことにことをそへて世の中をいとうき物におほししみぬれはたゝならぬ御あたりのとふらひともも心うしとのみそなへておほさるゝ院におほしなけきとふらひきこえさせ給さまかへりておもたゝしけなるをうれしきせもましりておとゝは御涙のいとまなし人の申すにしたかひていかめしきことゝもをいきやかへり給とさま　くにのこる事なくかつそこなはれ給事とものあるをみる　くもつきせすおほしまとへとかひなくて日ころになれはいかゝはせむとて鳥へ野にゐてたてまつるほといみしけなる事おほかりこなたかなたの御をくりの人ともてら　くの念仏そうなとそこらひろき野に所もなし院をはさらにも申さすきさいの宮春宮なとの御つかひさらぬ所　くのもまいりちかひてあかすいみしき御とふらひをきこえ給おとゝはえたちあかり給はすかゝるよはひのするにわかくさかりのここにをくれたてまつりてもこよふことゝはちなき給をここらの人かなしうみたてまつる夜もすからいみしうのゝしりつるきしきなれといともはかなき御かはねはかりを御なこりにてあか月ふかくかへり給つねの事なれと人ひとりかあまたしもみ給はぬことなれはにやたくひなくおほしこかれたり八月廿よ日の有明なれは空もけしきもあはれすくなからぬにおとゝのやみにくれまとひ給へるさまをみたまふもことはりにいみしけれは空のみなかめられ給て

　　のほりぬるけふりはそれとわかねともなへて雲ゐのあはれなる哉とのにおはしつきて露まとろまれ給はすとしころの御ありさまをおほしいてつゝなとてつゐにはをのつからみなをし給てむとのとかにおもひてなをさりのすさひにつけてもつらしとおほえられたてまつりけむよをへてうとくはつかしき物におも

ひてすきはて給ぬるなとくやしき事おほくおほしつつけらるれとかひなしにはめる御そたてまつれるも夢の心ちしてわれさきたゝましかはふかくそめ給はましとおほすさへ

かきりあれはうすゝみ衣あさけれと涙そ袖をふちとなしけるとてねむすし給へるさまいとゝなまめかしさまさりて経しのひやかによみ給つゝ法かい三まいふけん大しとうちの給へるおこなひなれたるほうしよりはけなりわか君をみたてまつり給にもなにゝしのふのといとゝ露けゝれとかかるかたみさへなからましかはとおほしなくさむ宮はしつみいりてそのまゝにおきあかり給はすあやうけにみえ給を又おほしさはきて御いのりなとせさせ給はかなうすきゆけは御わさのいそきなとせさせ給もおほしかけさりしことなれはつきせすいみしうなむなのめにかたほなるをたに人のおやはいかゝおもふめるましてことはり也又たくひおはせぬをたにさう　くしくおほしつるに袖のうへの玉のくたけたりけむよりもあさましけなり大将の君は二条院にたにあからさまにもわたり給はすあはれに心ふかうおもひなけきておこなひをまめにし給ひつゝあかしくらし給所　くには御ふみはかりそたてまつり給かの宮す所はさい宮は左衛門のつかさにいり給にけれはいとゝいつくしき御きよまはりにことつけてきこえもかよひ給はすうしとおもひしみにし世もなへていとはしうなり給てかゝるほたしたにそはさらましかはねかはしきさまにもなりなましとおほすにはまつたいのひめ君のさう　くしくてものし給らむありさまそふとおほしやらるゝよるはみ丁のうちにひとりふし給にとのゐの人〻はちかうめくりてさふらへとかたはらさひしくて時しもあれとねさめかちなるにこゑすくれたるかきりえりさふらはせ給念仏の暁かたなとしのひかたしふかき秋のあはれまさり行風のをと身にしみけるかなとならはぬ御ひとりねにあかしかね給へるあさほらけのきりわたれるに菊のけしきはめる枝にこきあをにひのかみなるふみつけてさしをきていにけりいまめかしうもとてみ給へは宮す所の御てなりきこえぬほとはおほししるらむや

人の世をあはれときくも露けきにをくるゝ袖をおもひこそやれたゝいまの空におもひ給へあまりてなむとありつねよりもいうにもかい給へるかなとさすかにをきかたうみ給物からつれなの御とふらひやと心うしさりとてかきたえをとなうきこえさらむもいとおしく人の御なのくちぬへき事をおほしみたるすきにし人はとてもかくてもさるへきにこそは物し給けめなにゝさることをさた

くとけさやかにみきゝけむとくやしきは我御心なから猶えおほしなをすまし

きなめりかし斎宮の御きよまはりもわつらはしくやなとひさしうおもひわつらひ給へとわさとある御返なくはなさけなくやとてむらさきのにはめるかみにこよなうほとへ侍にけるを思給へおこたらすなからつゝましきほとはさらはおほししるらむやとてなむ

とまる身もきえしもおなし露の世に心をくらむほとそはかなきかつはおほしけちてよかし御らんせすもやとてたれにもときこえ給へりさとにおはするほとなりけれはしのひてみ給てほのめかし給へるけしきを心のおにゝしるくみ給てされはよとおほすもいといみし猶いとかきりなき身のうさ也けりかやうなるきこえありて院にもいかにおほさむ故前坊のおなしき御はらからといふ中にもいみしうおもひかはしきこえさせ給てこの斎宮の御ことをもねんころにきこえつけさせ給しかはその御かはりにもやかてみたてまつりあつかはむなとつねにの給せてやかてうちすみし給へとたひ　くきこえさせ給しをたにいとあるましきことゝおもひはなれにしをかく心よりほかにわか　くしき物思をしてつゐにうき名をさへなかしはてつへきことゝおほしみたるゝになをれいのさまにもおはせすさるは大かたの世につけて心にくゝよしあるきこえありてむかしより名たかく物し給へは野の宮の御うつろひのほとにもおかしういまめきたる事おほくしなして殿上人とものこのましきなとは朝夕の露わけありくをその比のやくになむするなときゝ給ても大将の君はことはりそかしゆへはあくまてつき給へる物をもし世中にあきはてゝくたり給なはさう　くしくもあるへきかなとさすかにおほされけり御法事なとすきぬれと正日までは猶こもりおはすならはぬ御つれ　くを心くるしかり給て三位中将はつねにまいり給つゝ世中の御物かたりなとまめやかなるも又れいのみたりかはしき事をもきこえいてつゝなくさめきこえ給にかの内侍そうちわらひ給くさはひにはなるめる大将の君はあないとおしやをはおとゝのうへないたうかろめ給ひそといさめ給物からつねにおかしとおほしたりかのいさよひのさやかならさりし秋の事なとさらぬもさま　くのすきことゝもをかたみにくまなくいひあらはし給はて　くはあはれなる世をいひ　くてうちなきなともし給けり時雨うちして物あはれなる暮つかた中将の君にひ色のなをしさしぬきうすらかに衣かへしていとおゝしうあさやかに心はつかしきさましてまいり給へり君はにしのつまのかうらんにをしかゝりて霜かれのせむさいみ給ほと也けり風あららかにふきしくれさとしたるほと涙もあらそふ心ちして雨となり雲とや成にけんいまはしらすとうちひとりこちてつらつゐつき給へる御さま女にてはみすてゝなくならむ玉しひかならすとまりなむかしと

色めかしき心ちにうちまもられつゝちかうついゐ給へれはしとけなくうちみたれ給へるさまなからひもはかりをさしなをし給これはいますこしこまやかなる夏の御なをしに紅のつやゝかなるひきかさねてやつれ給へるしもみてもあかぬ心ちそする中将もいとあはれなるまみになかめたまへり

雨となりしくるゝ空のうき雲をいつれのかたとわきてなかめむゆくゑなしやとひとりことのやうなるを

みし人の雨となりにし雲井さへいとゝ時雨にかきくらす比との給御けしきもあさからぬほとしるくみゆれはあやしうとし比はいとしもあらぬ御心さしを院なとゐたちての給はせおとゝの御もてなしも心くるしう大宮の御かたさまにもてはなるましきなとかた　く　にさしあひたれはえしもふりすて給はてものうけなる御けしきなからありへ給なめりかしといとおしうみゆるおり　く　ありつるをまことにやむことなくをもきかたはことに思きこえ給けるなめりとみしるにいよ　く　くちおしうおほゆよろつにつけてひかりうせぬる心ちしてくんしゐたかりけりかれたる下草の中にりんたうなてしこなとのさきいてたるをおらせ給て中将のたち給ぬるのちにわか君の御めのとの宰相の君して

草かれのまかきにのこるなてしこをわかれし秋のかたみとそみるにほひおとりてや御らんせらるらむときこえ給へりけになに心なき御ゑみかほそいみしううつくしき宮は吹風につけてたに木の葉よりけにもろき御涙はましてとりあへ給はす

いまもみてなか　く　袖をくたすかなかきほあれにしやまとなてしこ猶いみしうつれ　く　なれはあさかほの宮にけふのあはれはさりとも見しり給らむとおしはからるゝ御心はへなれはくらきほとなれときこえ給たえまとをけれとさのものとなりにたる御ふみなれはとかなくて御らむせさす空の色したるからのかみに

わきてこのくれこそ袖は露けゝれ物おもふ秋はあまたへぬれといつも時雨はとあり御手なとの心とゝめてかき給へるつねよりもみ所ありてすくしかたきほとなりと人もきこえみつからもおほされけれは大うち山をおもひやりきこえなからえやはとて

秋きりにたちをくれぬときゝしより時雨ゝ空もいかゝとそおもふとのみほのかなるすみつきにておもひなし心にくしなに事につけてもみまさりはかたき世なめるをつらき人しもこそとあはれにおほえ給人の御心さまなるつれななからさるへきおり　く　のあはれをすくし給はぬこれこそかたみになさけもみはつ

へきわさなれ猶ゆへつきよしつきて人めにみゆはかりなるはあまりのなむもいてきけりたいのひめ君をさはおほしたてしとおほすつれ　くにて恋しと思らむかしとわするゝおりなけれとたゝめおやなき子をゝきたらむ心ちしてみぬほとうしろめたくいかゝおもふらむとおほえぬそ心やすきわさなりけるくれはてぬれは御となふらちかくまいらせ給てさるへきかきりの人　く御まへにて物語なとせさせ給中納言の君といふはとしころしのひおほししかとこの御思ひのほとは中　くさやうなるすちにもかけ給はすあはれなる御心かなとみたてまつる大かたにはなつかしううちかたらひ給てかうこの日ころありしよりけにたれも

　くまきるゝかたなくみなれ　くてえしもつねにかゝらすは恋しからしやいみしき事をはさる物にてたゝうちおもひめくらすこそたへかたきことおほかりけれとの給へはいとゝみなきていふかひなき御事はたゝかきくらす心ちし侍はさる物にてなこりなきさまにあくかれはてさせ給はむほと思給ふるこそときこえもやらすあはれとみわたし給てなこりなくはいかゝは心あさくもとりなし給哉心なかき人たにあらはみはて給ひなむ物を命こそはかなけれとて火をうちなかめたまへるまみのうちぬれ給へるほとそめてたきとりわきてらうたくし給しちいさきわらはのおやともゝなくいと心ほそけにおもへることはりにみ給てあてきはいまはわれをこそはおもふへき人なめれとのたまへはいみしうなくほとなきあこめ人よりはくろうそめてくろきかさみくわむさうのはかまなときたるもおかしきすかた也むかしをわすれさらむ人はつれ　くをしのひてもをさなき人をみすてすものし給へみし世のなこりなく人　くさへかれなはたつきなさもまさりぬへくなむなとみな心なかゝるへきことゝもをの給へといてやいとゝまちとをにそなり給はむとおもふにいとゝ心ほそし大とのは人ゝにきは　くほとをきつゝはかなきもてあそひ物とも又まことにかの御かたみなるへき物なとわさとならぬさまにとりなしつゝみなくはらせ給けり君はかくてのみもいかてかはつく　くとすくし給はむとて院へまいり給御車さしいてゝこせむなとまいりあつまるほとおりしりかほなる時雨うちそゝきて木の葉さそふ風あはたゝしう吹はらひたるにおまへにさふらふ人ゝものいと心ほそくてすこしひまありつる袖ともうるひわたりぬよさりはやかて二条院にとまり給へしとてさふらひの人

　くもかしこにてまちきこえんとなるへしをの　くたちいつるにけふにしもとちむましき事なれと又なくものかなしおとゝも宮もけふのけしきにまたかなしさあらためておほさる宮の御まへに御せうそこきこえ給へり院におほつかなかりの給するによりけふなむまいり侍あからさまにたちいて侍につけてもけふま

てなからへ侍にけるよとみたり心ちのみうこきてなむきこえさせむも中　くに
侍へけれはそなたにもまいり侍らぬとあれはいとゝしく宮はめもみえ給はすし
つみいりて御返もきこえ給はすおとゝそやかてわたり給へるいとたへかたけに
おほして御袖もひきはなち給はすみたてまつる人　くもいとかなし大将の君は
よをおほしつゝくることいとさま　くにてなき給さまあはれに心ふかき物から
いとさまよくなまめき給へりおととひさしうためらひ給てよはひのつもるには
さしもあるましきことにつけてたに涙もろなるわさに侍をましてひるよなうお
もひ給へまとはれ侍心をえのとめ侍らねは人めもいとみたりかはしう心よはき
さまに侍へけれは院なとにもまいり侍らぬ也ことのついてにはさやうにおもむ
けそうせさせ給へいくはくも侍るましきおいのすゑにうちすてられたるかつら
うも侍かなとせめて思ひしつめての給けしきいとわりなし君もたひ　くはなう
ちかみてをくれさきたつほとのさためなさは世のさかとみ給へしりなからさし
あたりておほえ侍心まとひはたくひあるましきわさとなむ院にもありさまそう
し侍らむにおしはからせ給てむときこえ給さらは時雨もひまなく侍めるを暮ぬ
ほとにとそゝのかしきこえ給うちみまはし給にみき丁のうしろさうしのあなた
なとのあきとおりたるなとに女はう卅人はかりおしこりてこきうすきにひ色と
もをきつゝみないみしう心ほそけにてうちしほたれつゝゐあつまりたるをいと
あはれとみ給おほしすつましき人もとまりたまへれはさりとももものゝついてに
はたちよらせ給はしやなとなくさめ侍をひとへにおもひやりなき女はうなとは
けふをかきりにおほしすてつる古郷と思くむしてなかくわかれぬるかなしひよ
りもたゝ時　くなれつかうまつるとし月のなこりなかるへきをなけき侍めるな
むことはりなるうちとけおはします事は侍さりつれとさりともつゐにはとあい
なたのめし侍つるをけにこそ心ほそきゆふへに侍れとてもなき給ぬいとあさは
かなる人ゝのなけきにも侍なるかなまことにいかなりともとのとかに思給へつ
るほとはをのつから御めかるゝおりも侍つらむを中　くいまはなにをたのみに
てかはおこたり侍らんいま御らんしてむとていて給をおととみをくりきこえ給
ていり給へるに御しつらひよりはしめありしにかはる事もなけれとうつせみの
むなしき心ちそし給御丁のまへに御すゝりなとうちゝらして手ならひすて給へ
るをとりてめをおしゝほりつゝみ給をわかき人々はかなしき中にもほをゑむあ
るへしあはれなるふる事ともからのもやまとのもかきけかしつゝさうにもまな
にもさま　くめつらしきさまにかきませ給へりかしこの御てやと空をあふきて
なかめ給よそ人にみたてまつりなさむかおしきなるへしふるき枕ふるき衾たれ

とともにかとある所に

なき玉そいとゝかなしきねしとこのあくかれかたき心ならひに又霜の花しろしとある所に

君なくてちりつもりぬるとこなつの露うちはらひいく夜ねぬらむ一日の花

なるへし枯てましれり宮に御らんせさせ給ていふかひなき事をはさる物にてかゝるかなしきたくひ世になくやはと思なしつゝ契なかゝらてかく心をまとはすへくてこそはありけめとかへりてはつらくさきの世を思やりつゝなむさまし侍をたゝ日ころにそへて恋しさのたへかたきとこの大将の君のいまはとよそになり給はむなんあかすいみしく思たまへらるゝ一日ふつかもみえ給はすかれ　く

におはせしをたにあかすむねいたく思侍しをあさゆふのひかりうしなひてはいかてかなからふへからんと御こゑもえしのひあへ給はすない給におまへなるおとな　くしき人なといとかなしくてさとうちなきたるそゝろさむきゆふへのけしき也わかき人ゝは所　くにむれゐつゝをのかとちあはれなる事ともうちかたらひてとのゝおほしのたまはするやうにわか君をみたてまつりてこそはなくさむへかめれと思ふもいとはかなきほとの御かたみにこそとてをの　くあからさまにまかてゝまいらむといふもあれはかたみにわかれおしむほとをのかしゝあはれなる事ともおほかり院へまいり給へれはいといたうおもやせにけりさうしにて日をふるけにやと心くるしけにおほしめしておまへにて物なとまいらせ給てとやかくやとおほしあつかひきこえさせ給へるさまあはれにかたしけなし中宮の御かたにまいり給へれは人　くめつらしかりみたてまつる命婦の君して思つきせぬ事ともをほとふるにつけてもいかにと御せうそこきこえ給へりつねなき世は大かたにもおもふ給へしりにしをめにちかくみ侍つるにいとはしきことおほく思給へみたれしもたひ　くの御せうそこになくさめ侍てなむけふまてもとてさらぬおりたにある御けしきとりそへていと心くるしけなりむもんのうへの御そににひ色の御したかさねえいまき給へるやつれすかたはなやかなる御よそひよりもなまめかしさまさり給へり春宮にもひさしうまいらぬおほつかなさなときこえ給て夜ふけてそまかて給二条院にはかた　くはらひみかきておとこ女まちきこえたり上らうともみなまうのほりてわれも　くとさうそきけさうしたるをみるにつけてもかのゐなみくむしたりつるけしきともそあはれにおもひいてられ給御さうそくたてまつりかへてにしのたいにわたりたまへり衣かへの御しつらひくもりなくあさやかにみえてよきわか人わらはへのなりすかためやすくとゝのへて少納言かもてなし心もとなき所なう心にくしとみ給ひめ君いと

うつくしうひきつくろひておはすひさしかりつるほとにいとこよなうこそおとなひ給にけれとてちいさきみき丁ひきあけてみたてまつり給へはうちそはみてわらひ給へる御さまあかぬ所なしほかけの御かたはらめかしらつきなとたたかの心つくしきこゆる人にたかふ所なくなり行かなとみ給にいとうれしちかくより給ておほつかなかりつるほとの事ともなときこえ給て日ころの物かたりのとかにきこえまほしけれといま　くしうおほえ侍れはしはしことかたにやすらひてまいりこむ今はとたえなくみたてまつるへけれはいとはしうさへやおほされむとかたらひきこえ給を少納言はうれしときく物から猶あやうく思きこゆやむことなきしのひ所おほうかゝつらひ給へれは又わつらはしきやたちかはり給はむと思ふそにくき心なるや御方にわたり給て中将の君といふ御あしなとまいりすさひておほとのこもりぬあしたにはわか君の御もとに御ふみたてまつり給あはれなる御返をみ給にもつきせぬ事とものみなむいとつれ　くになかめかちなれとなにとなき御ありきもものうくおほしなられておほしもたゝれすひめ君のなに事もあらまほしうとゝのひはてゝいとめてたうのみみえ給をにけなからぬほとにはたみなし給へれはけしきはみたる事なとおり　くきこえこゝろみ給へとみもしり給はぬけしき也つれ　くなるまゝにたゝこなたにてこうちへんつきなとしつゝ日をくらし給に心はへのらう　くしくあいきやうつきはかなきたはふれことのなかにもうつくしきすちをしいて給へはおほしはなちたる年月こそたゝさるかたのらうたさのみはありつれしのひかたくなりて心くるしけれといかゝ有けむ人のけちめみたてまつりわくへき御中にもあらぬにおとこ君はとくおき給て女君はさらにおき給はぬあしたあり人ゝいかなれはかくおはしますならむ御心ちのれいならすおほさるゝにやとみたてまつりなけくに君はわたり給とて御すゝりのはこを御帳のうちにさしいれておはしにけり人まにからうしてかしらもたけ給へるにひきむすひたるふみ御枕のもとにありなに心もなくひきあけてみ給へは

あやなくもへたてけるかなよをかさねさすかになれしよるの衣をとかきすさひ給へるやう也かゝる御心おはすらむとはかけてもおほしよらさりしかはなとてかう心うかりける御心をうらなくたのもしき物におもひきこえけむとあさましうおほさるひるつかたわたり給てなやましけにし給らむはいかなる御心ちそけふはこもうたてさう　くしやとてのそき給へはいよ　く御そひきかつきてふし給へり人ゝはしりそきつゝさふらへはより給てなとかくいふせき御もてなしそおもひのほかに心うくこそおはしけれな人もいかにあやしとおもふらむと

て御ふすまをひきやり給へれはあせにをしひたしてひたいかみもいたうぬれ給
へりあなうたてこれはいとゆゝしきわさそよとてよろつにこしらへきこえ給へ
とまことにいとつらしと思給て露の御いらへもし給はすよし　くさらにみえた
てまつらしいとはつかしなとえし給て御すゝりあけてみ給へと物もなけれはわ
かの御ありさまやとらうたくみたてまつり給て日ひとひいりゐてなくさめきこ
え給へととけかたき御けしきいとゝらうたけなりそのよさりゐのこもちゐまい
らせたりかゝる御思のほとなれはこと　くしきさまにはあらてこなたはかりに
おかしけなるひわりこなとはかりを色　くにてまいれるをみ給て君みなみのか
たにいて給てこれみつをめしてこのもちゐかうかす　くに所せきさまにはあら
てあすのくれにまいらせよけふはいま　くしき日也けりとうちほゝゑみての給
御けしきを心とき物にてふと思よりぬこれみつたしかにもうけたまはらてけに
あいきやうのはしめは日えりしてきこしめすへき事にこそさてもねのこはいく
つかつかうまつらすへう侍らむとまめたちて申せはみつかひとつかにてもあら
むかしとの給に心えはてゝたちぬ物なれのさまやときみはおほす人にもいはて
手つからといふはかりさとにてそつくりゐたりける君はこしらへわひ給ていま
はしめぬすみもてきたらむ人の心ちするもいとおかしくてとし比あはれとおも
ひきこえつるはかたはしにもあらさりけり人の心こそうたてある物はあれいま
は一夜もへたてむ事のわりなかるへき事とおほさるの給しもちゐしのひていた
う夜ふかしてもてまいれり少納言はおとなしくてはつかしくやおほさむと思や
りふかく心しらひてむすめの弁といふをよひいてゝこれしのひてまいらせ給へ
とてかうこのはこをひとつさしいれたりたしかに御枕かみにまいらすへきいは
ひの物に侍あなかしこあたになといへはあやしとおもへとあたなる事はまたな
らはぬ物をとてとれはまことにいまはさるもしいませ給へよゝもましり侍らし
といふわかき人にてけしきもえふかく思よらねはもてまいりて御枕かみの御き
丁よりさしいれたるを君それいのきこえしらせ給らむかし人はえしらぬにつと
めてこのはこをまかてさせ給へるにそしたしきかきりの人　くおもひあはする
事ともありける御さらともなといつのまにかしいてけむけそくいときよらにし
てもちゐのさまもことさらひいとおかしうとゝのへたり少納言はいとかうしも
やとこそ思きこえさせつれあはれにかたしけなくおほしいたらぬ事なき御心は
へをまつうちなかれぬさてもうち　くにのたまはせよなかの人もいかにおもひ
つらむとささめきあへりかくて後はうちにも院にもあからさまにまいり給へる
程たにしつ心なくおもかけに恋しけれはあやしの心やとわれなからおほさるか

よひ給し所　くよりはうらめしけにおとろかしきこえ給なとすれはいとおしとおほすもあれと新手枕の心くるしくてよをやへたてむとおほしわつらはるれはいと物うくてなやましけにのみもてなし給て世中のいとうくおほゆるほとすくしてなむ人にもみえたてまつるへきとのみいらへ給つゝすくし給いまきさきはみくしけ殿猶この大将にのみ心つけたまへるをけにはたかくやむことなかりつる方もうせ給ぬめるをさてもあらむになとかくちおしからむなとおととの給にいとにくしと思ひきこえ給て宮つかへもおさ　くしくたにしなし給へらはなとかあしからむとまいらせたてまつらむことをおほしはけむ君もをしなへてのさまにはおほえさりしをくちをしとはおほせとたゝいまはことさまにわくる御心もなくてなにかはかはかりみしかからめ世にかくておもひさたまりなむ人のうらみもおふましかりけりといとゝあやうくおほしこりにたりかのみやす所はいと　くおしけれとまことのよるへとたのみきこえむにはかならす心をかれぬへし年ころのやうにてみすくし給はゝさるへきおりふしにものきこえあはする人にてはあらむなとさすかにことのほかにはおほしはなたすこのひめ君をいまゝてよ人もその人ともしりきこえぬも物けなきやう也ちゝ宮にしらせきこえてむとおもほしなりて御もきの事人にあまねくはの給はねとなへてならぬさまにおほしまうくる御よういなといとありかたけれと女君はこよなううとみきこえ給て年ころよろつにたのみきこえてまつはしきこえけるこそあさましき心なりけれとくやしうのみおほしてさやかにもみあはせたてまつり給はすきこえたはふれ給もくるしうわりなき物におほしむすほゝれてありしにもあらすなり給へる御ありさまをおかしうもいとおしうもおほされて年ころおもひきこえしほいなくなれはまさらぬ御けしきの心うきことゝうらみきこえ給ほとにとしもかへりぬついたちの日はれいの院にまいり給てそ内春宮なとにもまいり給それより大とのにまかて給へりおとゝあたらしき年ともいはすむかしの御事ともきこえいて給てさう　くしくかなしとおほすにいとゝかくさへわたり給へるにつけてねむしかへし給へとたへかたうおほしたり御年のくはゝるけにやもの　くしきけさへそひ給てありしよりけにきよらにみえ給たちいてゝ御かたにいり給へれは人ゝもめつらしうみたてまつりてしのひあへすわかきみみたてまつり給へはこよなうおよすけてわらひかちにおはするもあはれ也まみくちつきたゝ春宮の御おなしさまなれは人もこそみたてまつりとかむれとみ給御しつらひなともかはらすみそかけの御さうそくなとれいのやうにしかけられたるに女のかならはぬこそはへなくさう　くしくはへなけれ宮の御せうそこにてけふはいみしく思給

へしのふるをかくわたらせ給へるになむ中　くなときこえ給てむかしにならひ侍にける御よそひも月ころはいとゝ涙にきりふたかりて色あひなく御らむせられ侍らむと思給れとけふはかりは猶やつれさせたまへとていみしくしつくし給へる物とも又かさねてたてまつれ給へりかならすけふたてまつるへきとおほしける御したかさねは色もをりさまもよのつねならす心ことなるをかひなくやはとてきかへ給こさらましかはくちをしうおほさましと心くるし御返に春やきぬるともまつ御らむせられになんまいり侍つれと思給へいてらるる事おほくてえきこえさせ侍らす

あまた年けふあらためし色ころもきては涙そふるこゝちするえこそおもひたまへしつめねときこえ給へり御返

あたらしきとしともいはすふる物はふりぬる人の涙なりけりをろかなるへきことにそあらぬや